



1



2



3

1. 南側夕景
2. 地域素材で造られた受付カウンター
3. 3階から見たオフィスエリア

清水建設北陸支店新社屋 概要

- 所在地 石川県金沢市玉川町5-15
- 建築主 清水建設㈱
- 設計者 清水建設㈱
- 施工者 清水建設㈱
- 竣工日 2021年4月28日

- 敷地面積 3,255㎡
- 建築面積 1,546㎡
- 延床面積 4,224㎡

- 階数 地上3階、地下1階
- 構造 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造



詳細や他の写真などは
左記の二次元コードから
Webページに
アクセスしてご覧ください。

かわりを考慮して、フリーアドレ
スとABWを導入した配置計画を
行っている。プランニングと構造を
融合させ、全部署をワンフロアに集
約して、皆の顔が見える三層吹き抜
けの開放感のある室内空間を実現
している。

外周部に配置したRC造の壁柱
(厚さ四〇〇ミリ)に水平力を負担
させ、軸力だけを負担する内部の鋼
管柱(直径二〇三ミリ)は、ボイド
スラブ(厚さ四〇〇ミリ)などを支
持している。吹き抜け上部は、ビル
トH型鋼を能登ヒバ集成材で耐火
被覆した格子梁架構で構成され、既
施工案件の木の見え方にばらつき
がみられるとの反省から、ヒバの日
焼けに最大限配慮するとともに、接
合部のラミナが連続して見えるよ
うに配慮した製作と施工を行って
いて、ドリフトピン接合部の木栓さ
えも目視では見分けがつかない。格
子梁は工場で鉄骨と木を接合して、
現場に搬入して鉄骨を接合後に、耐
火木を嵌め込んでいる。この耐火木

は隙間がないように現場実測して
接合している。軟らかいヒバは、仮
置きしても凹んでしまうので、施工
上の取り扱いはかなり慎重に行って
いる。また、美しいコンクリートを
打つ方法など、今までの施工実績の
知見を集約して施工している。

東西ファサードは近隣との見合
いを避け、日射遮蔽を図りながら
自然光を効率的に導入する金沢の
伝統的街並み堅格子を現代的に進
化させた「木虫籠」ルーバーを採用
した景観を創出している。南側ファ
サードは、アルミニウムユニットカーテン
ウォール(W三、二〇〇ミリ×H三、
三五〇ミリ)により自然換気を行

うために足元の隠し無目に外気導
入口を設けるなど細部への配慮も
評価できる。

設計用積雪深は一・五以、冬季は
曇天が多い地域であり、エネルギー
の蓄積に課題がある。比較的小規模
な建築とはいえ、完全なZEBを達
成していることは高く評価できる。
LEEDやCASBEの環境総合
評価も高く、加えて水素利用エネル
ギーシステムを構築していることは
先駆的であり、今後の環境問題への
活用が大いに期待できる。更に、竣
工後も実測値を集積しチューニング
とフィードバックを行い、高効率運
転を目指している。



日建連表彰2023



第64回BCS賞

清水建設 北陸支店新社屋

選定理由 (選考委員)
中島 肇・篠原聡子・賀持剛一

金沢に一〇〇年以上続く北陸支
店の社屋建て替え計画である。地方
都市の中規模オフィスに対し、古都
金沢の街並み景観との調和、新しい
働き方への転換、脱炭素社会の実現
を目指している。

美しいコンクリート打ち放しの壁
柱と大型アルミカーテンウォールか
ら構成された彫りの深い外観が古
都金沢に調和しているかのように思
える。一階に入ると伝統産業である
アルミの鋳物とトチの無垢材の地
域素材で造られた受付カウンター
が迎えてくれる。二階は大きな吹き
抜けにより三階と一体となった大
空間を構成し、トップライトより光
の入る天井の木の格子梁が心地よ
い。

二〇〇名弱の小集団に対してセ
ンシング調査を実施し部署間のか

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2023年で64回を数えました。

《日建連表彰2023 第64回BCS賞受賞作品》 WITH HARAJUKU / Entō / 大阪梅田ツインタワーズ・サウス、及び周辺公共施設整備 / 大阪大学箕面キャンパス 外国学研究講義棟 / 京都市美術館(京都市京セラ美術館) / シェルター・インクルーシブアレイス コハル / 渋谷 パルコ・ヒューリックビル / 清水建設北陸支店新社屋 / 新宮市文化複合施設(丹鶴ホール) / 那覇文化芸術劇場 なはーと / 日本女子大学目白キャンパス再整備 / Port Plus / 丸紅ビル / ミチノテラス豊洲 / 早稲田大学本庄高等学院体育館